

日産車体株式会社

2024年度 第2四半期(中間期)決算説明

(2025年3月期)



2024年11月

決算サマリー

当社グループを取り巻く環境は、原材料価格の高騰や需要の変動など、先行き不透明な状況が続いている。このような環境において、売上台数は減少したものの、前型車に比べ売価の高い車両の販売台数が増加したことにより増収。一方、最先端の性能を有する車両の連続した立ち上げに対し、生産効率が十分に上がらないことにより売上台数が需要に追いつかず、また人員や生産時間を増やしたため追加の生産コストを要したこと等により減益となった。

売上台数

今年4月に生産を開始した北米向け「新型インフィニティQX80」が増加したものの、主に「AD」や「NV200バネット」等の商用車が減少した結果、前年同期と比べ11.4%減少の63,557台

売上高

売上台数は減少したものの、前型車に比べ売価の高い「新型インフィニティQX80」や「新型パトロール」の増加等により、12億円増加の1,468億円

営業利益

商用車を中心とした売上台数の減少による影響や、最先端の性能を有する「新型インフィニティQX80」や「新型パトロール」の連続した立ち上げに対し、生産効率が十分に上がらないことにより売上台数が需要に追いつかず、また人員や生産時間を増やしたため追加の生産コストを要したこと等により27億円悪化の22億円の損失

経常利益

26億円悪化の19億円の損失

親会社株主に帰属 する中間純損益

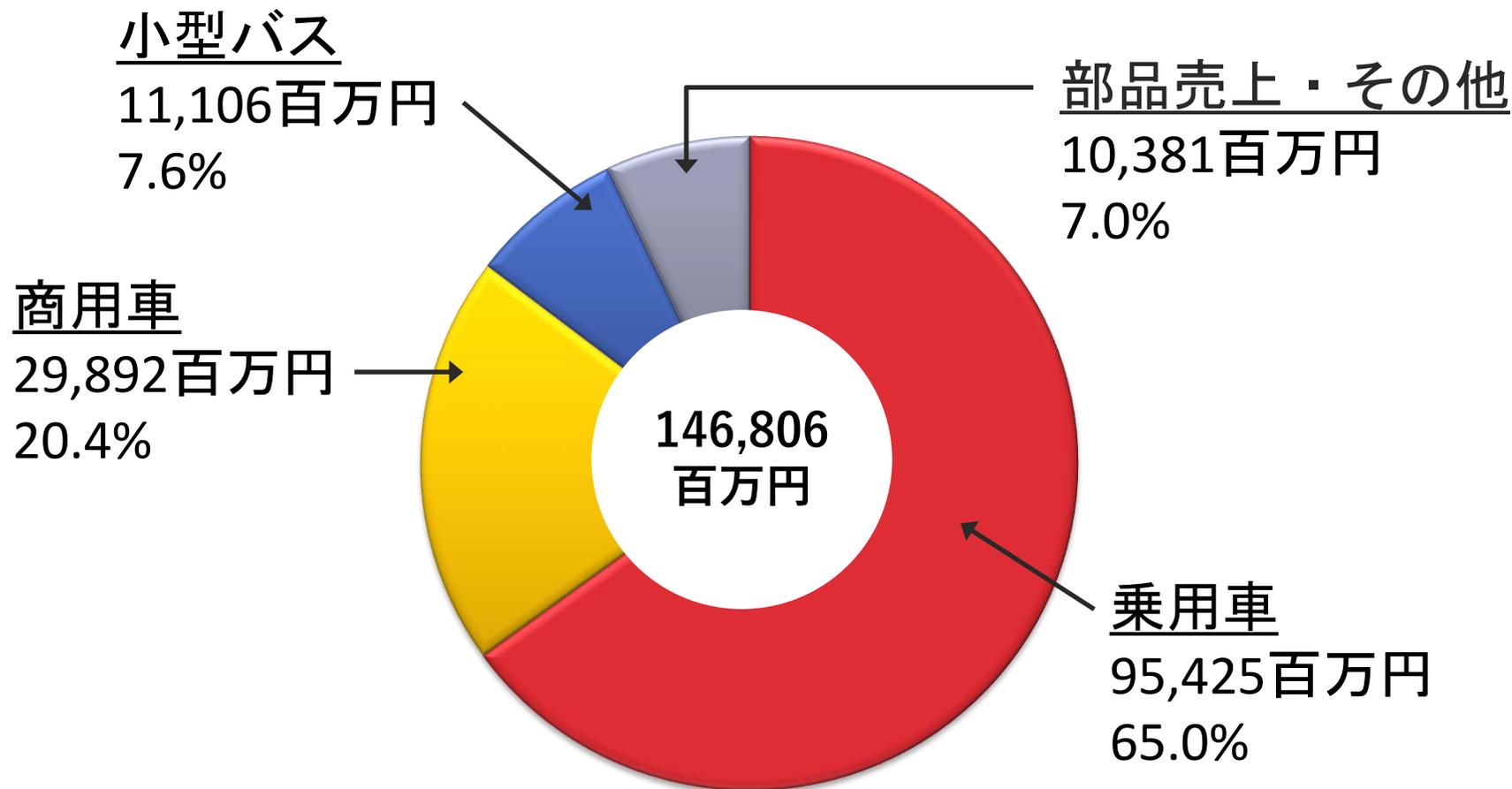
18億円悪化の14億円の損失

業績ハイライト

単位:百万円

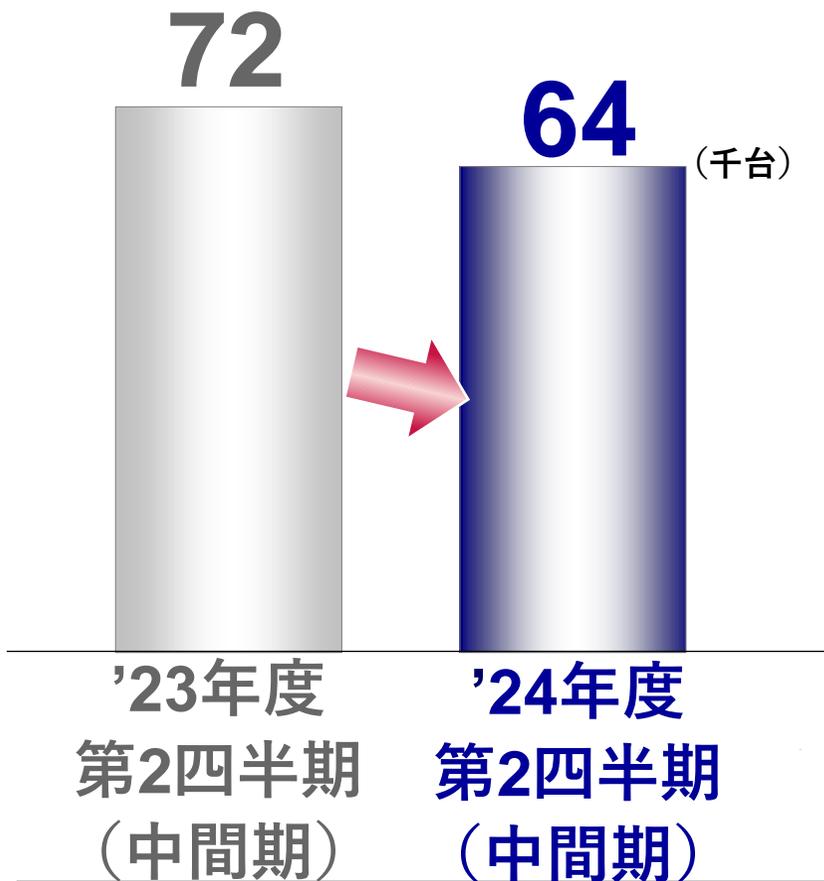
	2023年度 第2四半期 (中間期) (2023/4~9)	2024年度 第2四半期 (中間期) (2024/4~9)	増減額(率)		通期計画
売上高	145,579	146,806	1,227	0.8%	351,300
営業利益	488	▲ 2,270	▲ 2,758	—	4,400
経常利益	695	▲ 1,984	▲ 2,679	—	4,900
親会社株主に帰属する 中間純利益	414	▲ 1,459	▲ 1,873	—	2,400

製品別売上高構成比



売上台数

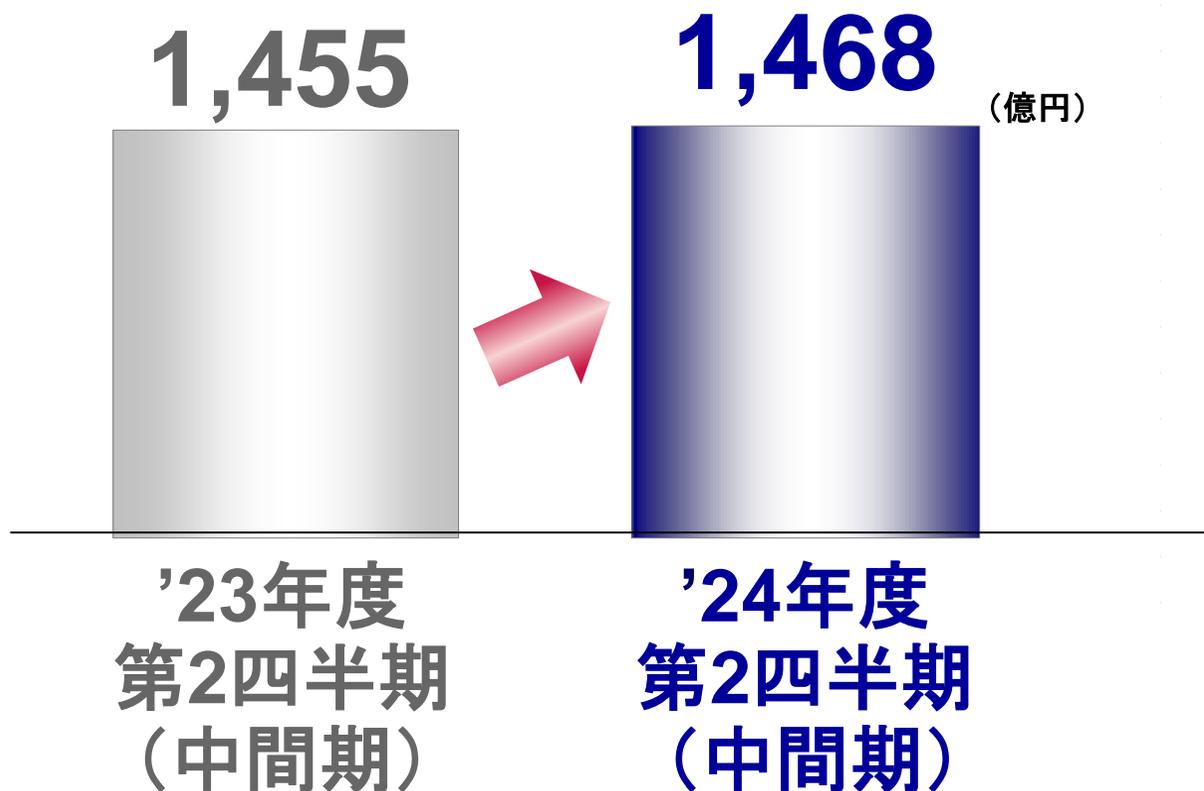
今年4月に生産を開始した北米向け「新型インフィニティQX80」が増加したものの、主に「AD」や「NV200バネット」等の商用車が減少した結果、前年同期と比べ11.4%減少の63,557台



	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	37	33	-11.1%
商用車	29	24	-18.9%
小型バス	6	7	22.0%
合計	72	64	-11.4%

売上高

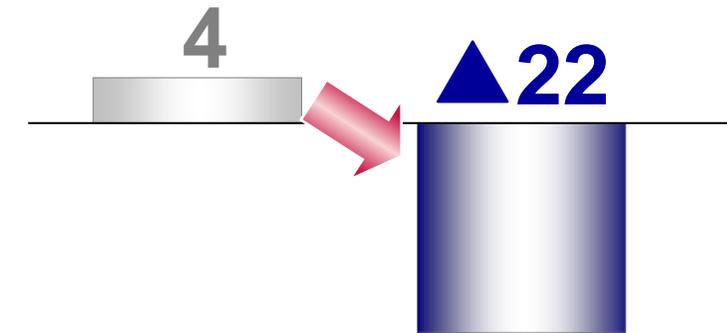
売上台数は減少したものの、前型車に比べ売上価格の高い「新型インフィニティQX80」や「新型パトロール」の増加等により、12億円増加の1,468億円



営業損益／経常損益

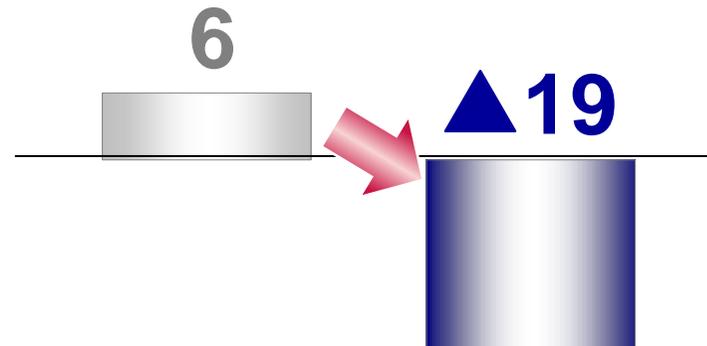
営業損益は商用車を中心とした売上台数の減少による影響や、最先端の性能を有する「新型インフィニティQX80」や「新型パトロール」の連続した立ち上げに対し、生産効率が十分に上がらないことにより売上台数が需要に追いつかず、また人員や生産時間を増やしたため追加の生産コストを要したこと等により27億円悪化の22億円の損失
経常損益は26億円悪化の19億円の損失

営業損益 (億円)



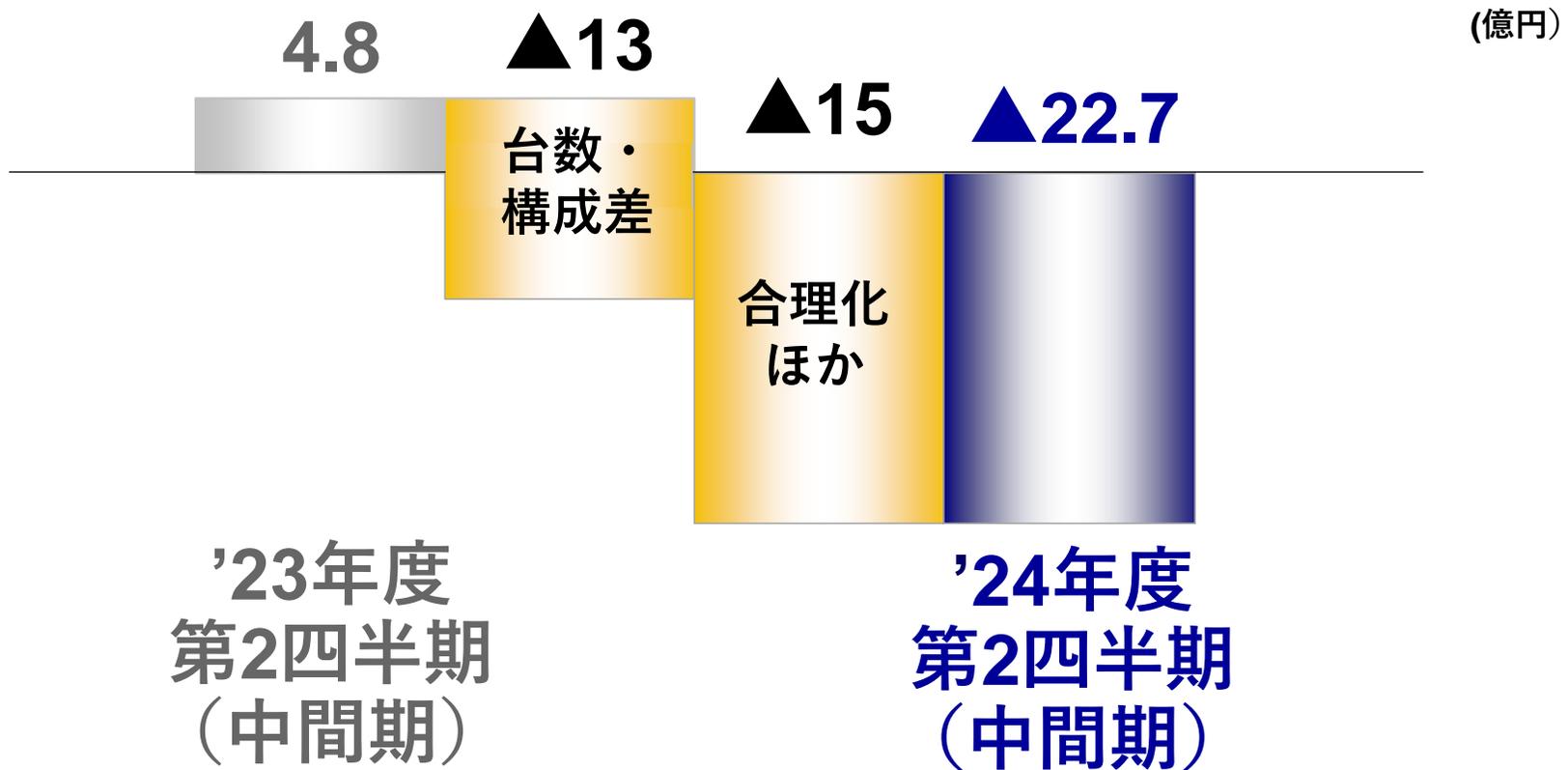
'23年度 第2四半期 (中間期) '24年度 第2四半期 (中間期)

経常損益 (億円)



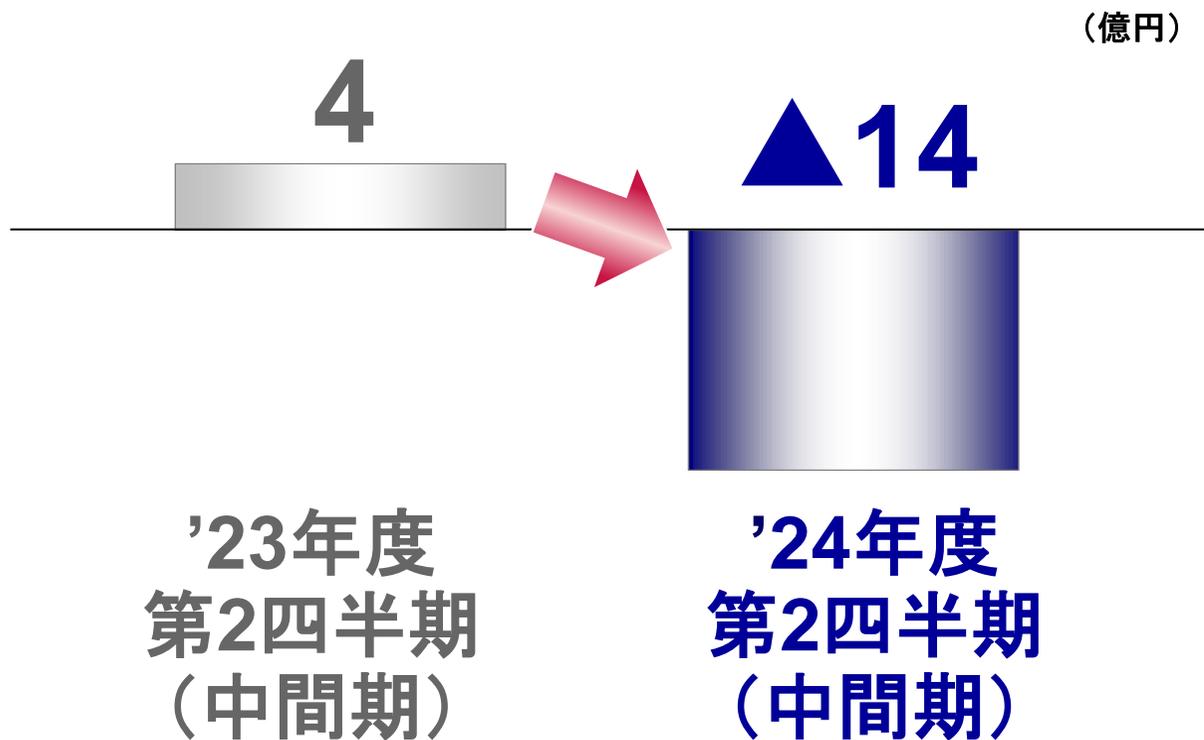
'23年度 第2四半期 (中間期) '24年度 第2四半期 (中間期)

営業利益の増減要因



親会社株主に帰属する中間純損益

18億円悪化の14億円の損失



2024年度 1株当たり配当金

安定配当を継続する基本方針のもと、2025年3月期は年間13円を予定

■ 中間配当金 ■ 期末配当金

